

令和7年度 指導要録 評価・評定について

江戸川区立第六葛西小学校

1. 指導要録改善の基本方針

- 評定を目標に準拠した評価に改善…各教科の評定について、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るなどの観点から、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価することに改められた。（絶対評価の一層の充実）

2. 観点別学習状況について

① 記入の方法

「十分満足できると判断されるもの」 **A**
 「おおむね満足できると判断されるもの」 **B**
 「努力を要すると判断されるもの」 **C**

② 評価の方法

- 通知表の学期ごとの観点別評価をもとに、学年末の評価の総括を行う。

A	B	C
A A A A A B B A A	B B B A B B B A C B C B	C C C C B C C C B
* Aが3つあるいはBが1つある場合	* Bが3つあるいは A と C の場合以外	* Cが3つあるいはBが1つある場合

(ア) 上の表を原則とする。

- ・ 各学期の評価が同じ場合は、総括も同じ評価にする。（例：A A A→A）
- ・ 各学期の評価結果が同じでない場合（A B Bなど）は、出現率の高い評価を重視しつつ、学年の目標や評価の観点の趣旨に照らし合わせ、総括的に評価する。

(イ) 3学期の評価を重視して評価する場合もある。

例) B B A、C B A など向上した場合 → Aもあり得る。
 B B C、A B C など下降した場合 → Cもあり得る。

学習状況全体をとらえて
 総括的に評価する。

3. 評定について

① 記入の方法

「十分満足できると判断されるもの」 **3**
 「おおむね満足できると判断されるもの」 **2**
 「努力を要すると判断されるもの」 **1**

② 評価の方法

- 学年末における観点別学習状況の評価の総括をもとに、評定を行う。（3年生以上）

3	2	1
A A A A A B B A A	B B B A B B B A C B C B	C C C C B C C C B
* Aが3つあるいはBが1つある場合	* Bが3つあるいは 3 と 1 の場合以外	* Cが3つあるいはBが1つある場合

(ア) 上の表を原則とする。

- ・ 総括した3つの観点の評価が同一の場合は、評定も同じにする。（B B B→2）
- ・ 総括した3つの観点の評価が同一でない場合は、出現率の高いものを重視する。また、学年の目標及び観点の趣旨に照らし合わせて実現状況を把握し、評定を行う。

* 評価・評定について、学年で十分に話し合い、共通理解を図る。

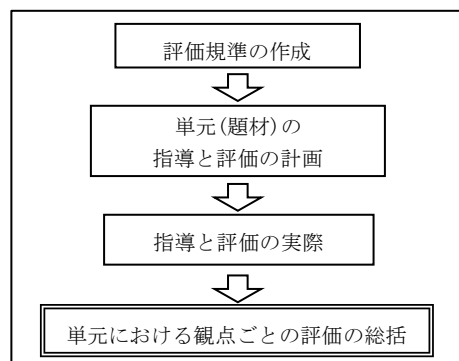
* 通知表における「学習の記録」の観点別評価についても、指導要録の評価方法に準じて評価する。

【学習指導における評価】

- 評価規準をもとに、指導と評価の一体化を図る。
 - (ア) 評価規準に照らして、まず「おおむね満足できる」状況(B)か、「努力を要する」状況(C)かを判断する。
 - (イ) Cと判断した児童には、Bになるように適切な指導を行う。(指導と評価の一体化)
 - (ウ) Bと判断されるもののうち、児童の学習の実現の程度について質的な高まりや深まりをもっているかと判断されるものを「十分満足できる」状況(A)とする。

※具体的な評価基準を設定する。

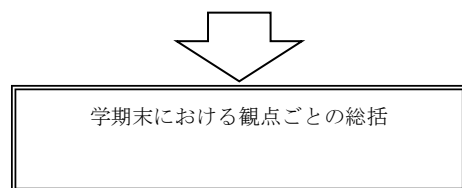
【教科における評価の進め方】



- 単元(題材)の学習過程における観点ごとの評価結果を整理し、評価規準に照らし合わせて、観点ごとの評価の総括を行う。

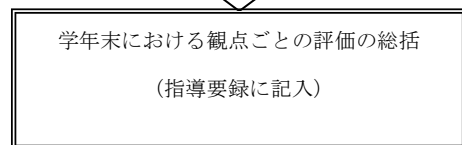
(例) 1 学期

各単元の総括\観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
単元1の評価の総括	B	B	C
単元2の評価の総括	B	A	B
単元3の評価の総括	B	A	B



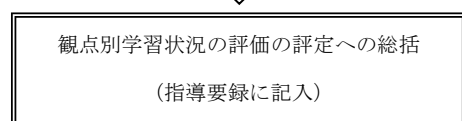
- 単元(題材)ごとの評価の総括から学期末の総括を行う。

児童① \ 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1学期の評価の総括	B	A	B
2学期の評価の総括	A	B	C
3学期の評価の総括	A	B	B



- 学期ごとの観点別評価の総括をもとに、学年末の観点別学習状況の評価を総括する。

児童① \ 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
学年末における評価	A	B	B



- 学年末における観点別学習状況の評価の総括をもとに、評定を行う。

学年末における評定	2
-----------	---

【信頼性のある評価を行うためのポイント10】

- ① 「指導と評価の計画」を立てる。
- ② 単元の目標や1時間ごとの指導のねらいを明確にして授業に臨む。
- ③ 観点ごとの評価規準に基づく評価を徹底する。
- ④ 評価の結果を指導に生かすことを重視する。
- ⑤ 児童の自己評価・相互評価を工夫し、教師の評価の参考にする。
- ⑥ 簡便で、継続可能な補助簿や総括表を工夫し、活用する。
- ⑦ 児童の学習活動と一体となった効果的な評価方法を工夫・開発する。
- ⑧ 評価にかかわる校内組織をつくり、学校全体で取り組む。
- ⑨ 児童・保護者に評価の方針・計画・方法等を分かりやすく伝える。